

**HGM-146-A**

**IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE**

Applicant: Takeshima et al.  
Serial Number: Unknown  
Filed: Concurrently herewith  
Group Art Unit: Unknown  
Examiner: Unknown  
Confirmation No.: Unknown  
Title: RUNNING BOARD FOR AN ALL-TERRAIN VEHICLE,  
AND VEHICLE INCORPORATING SAME

**TRANSMITTAL OF PRIORITY DOCUMENT**

Commissioner For Patents  
PO Box 1450  
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

In connection with the identified application, applicant encloses for filing a certified copy of:  
Japanese Patent Application No. 2003-102128, filed 04 April 2003, to support applicant's claim for  
Convention priority under 35 USC §119.

Respectfully submitted,



William D. Blackman  
Attorney for Applicant  
Registration No. 32,397  
(248) 344-4422

Customer Number 21828  
Carrier, Blackman & Associates, P.C.  
24101 Novi Road, Suite 100  
Novi, Michigan 48375  
31 March 2004

I hereby certify that this correspondence is being deposited with the U.S. Postal Service as Express  
Mail Certificate Et986049419US in an envelope addressed to Mail Stop Patent Application,  
Commissioner For Patents, PO Box 1450, Alexandria VA 22313-1450 on 31 March 2004.

Dated: 31 March 2004  
WDB/km  
enclosures

  
Kathryn MacKenzie

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日                      2 0 0 3 年    4 月    4 日  
Date of Application:

出 願 番 号                      特 願 2 0 0 3 - 1 0 2 1 2 8  
Application Number:  
[ST. 10/C]:                      [ J P 2 0 0 3 - 1 0 2 1 2 8 ]

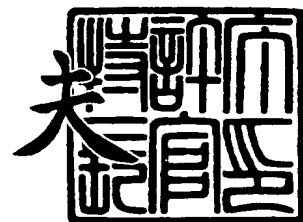
出      願      人                      本 田 技 研 工 業 株 式 有 限 公 司  
Applicant(s):



2 0 0 4 年    2 月 2 5 日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 H103049901

【提出日】 平成15年 4月 4日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B62J 15/00

【発明の名称】 鞍乗り型車両のステップボード

【請求項の数】 3

【発明者】

    【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

    【氏名】 竹島 正雄

【発明者】

    【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

    【氏名】 稲見 重人

【特許出願人】

    【識別番号】 000005326

    【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100064908

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 志賀 正武

【選任した代理人】

    【識別番号】 100108578

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 高橋 詔男

## 【選任した代理人】

【識別番号】 100101465

【弁理士】

【氏名又は名称】 青山 正和

## 【選任した代理人】

【識別番号】 100094400

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴木 三義

## 【選任した代理人】

【識別番号】 100107836

【弁理士】

【氏名又は名称】 西 和哉

## 【選任した代理人】

【識別番号】 100108453

【弁理士】

【氏名又は名称】 村山 靖彦

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008707

【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705358

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 鞍乗り型車両のステップボード

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 車幅方向の側部に操作ペダルを備えたパワーユニットの車幅方向の側方に配置されるとともに乗員の足が載せられるステップ部を備えた鞍乗り型車両のステップボードにおいて、

前記操作ペダルを挿通させる挿通開口部を有し前後方向に沿いかつ上下方向に沿う隔壁部を前記パワーユニットと前記ステップ部との間に設けてなることを特徴とする鞍乗り型車両のステップボード。

【請求項 2】 前記隔壁部は、前記ステップ部を有するステップボード本体に対し別体で設けられるとともに、前記挿通開口部から前記ステップボード本体取付側の端縁部に抜けるスリットを有することを特徴とする請求項 1 記載の鞍乗り型車両のステップボード。

【請求項 3】 前記隔壁部の前記挿通開口部を形成する周縁部は、前部側が前記パワーユニット側に位置し後部側がパワーユニットに対し車幅方向反対側に位置するように段付き形状をなしていることを特徴とする請求項 1 または 2 記載の鞍乗り型車両のステップボード。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、鞍乗り型車両のステップボードに関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

鞍乗り型車両には、車体中央に設けられたパワーユニットの車幅方向の側方に、乗員の足が載せられるステップ部を備えたステップボードを備えたものがある。このようなステップボードの従来のものは、その主部が前輪を覆うフロントフェンダの後部下端側と後輪を覆うリヤフェンダの前部下端側とを結ぶように略水平に配置される板状をなしている（例えば、特許文献 1 参照）。

## 【0003】

## 【特許文献1】

特開 2001-71962 号公報

## 【0004】

## 【発明が解決しようとする課題】

従来のステップボードは、上記のようにその主部が略水平に配置される板状をなしており、また車体内側に設けられたパワーユニットとの間に少なからず隙間が設けられるため、車両の主目的としての不整地走行中にこの隙間を介して雪や泥等がステップボード上に載り上げて溜まり易いという問題があった。また、略水平に配置される板状をなしているのでは、パワーユニットから乗員の足に向けた放熱を遮断することができないという問題もあった。

## 【0005】

したがって、本発明は、走行中に雪や泥等が載り上げることを防止することができるとともにパワーユニットから乗員の足に向けた放熱を遮断することができる鞍乗り型車両のステップボードの提供を目的とする。

## 【0006】

## 【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、請求項1に係る発明は、車幅方向の側部に操作ペダル（例えば実施の形態におけるチェンジペダル28）を備えたパワーユニット（例えば実施の形態におけるパワーユニット15）の車幅方向の側方に配置されるとともに乗員の足が載せられるステップ部（例えば実施の形態におけるステップ部46）を備えた鞍乗り型車両（例えば実施の形態における鞍乗り型車両11）のステップボード（例えば実施の形態におけるステップボード26）において、前記操作ペダルを挿通させる挿通開口部（例えば実施の形態における挿通開口部88）を有し前後方向に沿いかつ上下方向に沿う隔壁部（例えば実施の形態におけるエンジンサブカバー34）を前記パワーユニットと前記ステップ部との間に設けてなることを特徴としている。

## 【0007】

このように、パワーユニットとステップ部との間に、前後方向に沿いかつ上下

方向に沿う隔壁部が設けられているため、パワーユニットとの隙間を介して載り上げようとする雪や泥等はこの隔壁部に当たることになって載り上げが阻止されるとともに、パワーユニットから乗員の足に向けた放熱も隔壁部で遮断されることになる。しかも、隔壁部には、操作ペダルを挿通させる挿通開口部が設けられているため、操作ペダルがあっても隔壁部を十分に広くすることができ、雪や泥等の載り上げを確実に阻止することができるとともに、パワーユニットから乗員の足に向けた放熱も確実に遮断することができる。

#### 【0008】

請求項2に係る発明は、請求項1に係る発明において、前記隔壁部は、前記ステップ部を有するステップボード本体（例えば実施の形態におけるステップボード本体33）に対し別体で設けられるとともに、前記挿通開口部から前記ステップボード本体取付側の端縁部に抜けるスリット（例えば実施の形態におけるスリット96）を有することを特徴としている。

#### 【0009】

これにより、操作ペダルを有するパワーユニットが搭載された車体への取付時に、ステップ部を有するステップボード本体を先に取り付けておき、その後、これとは別体の隔壁部を、その端縁部側に抜けるスリットを介して操作ペダルを端縁部側から通過させ挿通開口部に挿通させる状態として、ステップボード本体に取り付けることができる。しかも、隔壁部においてスリットは挿通開口部からステップボード本体取付側の端縁部に抜けるため、ステップボードに取り付ければ、このスリットによる分割部分をステップボードで固定することができる。

#### 【0010】

請求項3に係る発明は、請求項1または2に係る発明において、前記隔壁部の前記挿通開口部を形成する周縁部（例えば実施の形態における周縁部89）は、前部側が前記パワーユニット側に位置し後部側がパワーユニットに対し車幅方向反対側に位置するように段付き形状をなしていることを特徴としている。

#### 【0011】

このように、隔壁部の挿通開口部を形成する周縁部の前部側がパワーユニット側に位置し後部側がパワーユニットに対し車幅方向反対側に位置しているため、

パワーユニットと隔壁部との隙間を介して隔壁部に当たる雪や泥等が挿通開口部に入り込みにくくなる。

#### 【0012】

##### 【発明の実施の形態】

本発明の一実施形態の鞍乗り型車両のステップボードを図面を参照して以下に説明する。なお、以下の説明における前後左右は車両の前進時の進行方向における前後左右である。

#### 【0013】

図1は、不整地走行を主目的とする鞍乗り型車両（いわゆるバギー車）11を示す斜視図である。

#### 【0014】

この鞍乗り型車両11は、車体の前後左右の四隅に配置された車輪12と、車体の略中央位置に搭載されたエンジン13およびトランスミッション14を有するパワーユニット15と、車体前側上部に左右方向に延在するように設けられて前側の車輪への操舵が入力されるハンドルバー16と、ハンドルバー16に支持されたヘッドライトユニット17と、ハンドルバー16の後側に設けられた燃料タンク18と、燃料タンク18の後側に設けられたシート19と、車体の外殻をなす車体カバー20とを有している。なお、この鞍乗り型車両11はエンジン13の図示略のクランクシャフトが前後方向に延在するいわゆる縦置型とされている。

#### 【0015】

車体カバー20は、前側の車輪12を含む車体前部を覆うフロントカバー22と、フロントカバー22の後側に設けられて前側の車輪12の後部を覆う左右のサブフェンダ23と、フロントカバー22の後側にあつて燃料タンク18から車体の左右側部を覆うセンタカバー24と、センタカバー24の後側にあつて後側の車輪12を含む車体後部を覆うリヤカバー25と、サブフェンダ23の後側に設けられてパワーユニット15の車幅方向の側方に配置されるとともに後側の車輪12の前部を覆う左右のステップボード26とを有している。

#### 【0016】



そして、本実施形態のステップボード 26 は、具体的にはパワーユニット 15 の車幅方向左側に設けられるステップボード 26 となっている。ここで、パワーユニット 15 の車幅方向におけるこのステップボード 26 側つまり左側の側部にはトランスミッション 14 のギヤチェンジを行う図 2 に示すチェンジペダル（操作ペダル）28 が設けられている。

#### 【0017】

このチェンジペダル 28 は、図 3 に示すように、パワーユニット 15 の車幅方向における左側部から車幅方向側方に延出する回動軸 29 に基端側が固定されるもので、厚さ方向を横に向けてこの回動軸 29 から前方に延出し途中から前方かつ斜め左方に延出する細長板状の延出板部 30 と、この延出板部 30 の先端側から車幅方向側方外側に突出する操作ペダル部 31 とを有している。

#### 【0018】

図 2 に示すように、本実施形態のステップボード 26 は、サブフェンダ 23 の後側に連結されるとともに後側の車輪 12 の前部を覆うようにリヤカバー 25 に連結されるステップボード本体 33 と、このステップボード本体 33 とは別体とされてこのステップボード本体 33 に取り付けられるエンジンサブカバー（隔壁部）34 とを有している。

#### 【0019】

ステップボード本体 33 について車体フレーム 35 に取り付けられた状態をもって説明する。

#### 【0020】

ステップボード本体 33 は、略水平方向に沿って前後方向に延出するとともに前後方向の中間部に上側に凸状をなす台部 45 が形成されたボード部 38 と、このボード部 38 のパワーユニット 15 側の端縁部から前後方向に沿う状態で立ち上がる側壁部 39 と、ボード部 38 のパワーユニット 15 に対し反対側の端縁部から前後方向に沿う状態で上方に立ち上がった後外側で下がる外壁部 40 と、ボード部 38 の後端縁部から車幅方向に沿う状態で立ち上がって後輪の前側を覆うサブリヤフェンダ部 41 とを有している。

#### 【0021】

ここで、ボード部 38 の上記台部 45 は車幅方向に延在しており、この台部 45 の上にステップ部 46 が取り付けられている。なお、乗員の足はこのステップ部 46 に載せられる。

#### 【0022】

そして、図 4 にも示すように、ステップボード本体 33 の側壁部 39 には、下方に凹む形状をなす前凹部 47 が前部に形成されており、この前凹部 47 の後側にこの前凹部 47 よりも浅い後凹部 48 が前凹部 47 と連続するように形成されている。そして、これら前凹部 47 および後凹部 48 の端縁部に、車幅方向にパワーユニット 15 側に若干ずれてから側壁部 39 と平行をなす取付フランジ部 55 が形成されている。

#### 【0023】

この取付フランジ部 55 には、複数の円環状の弾性グロメット 57～60 が取り付けられている。具体的には、取付フランジ部 55 の前凹部 47 の前部やや上側の位置に弾性グロメット 57 が、後凹部 48 の底部近傍位置に弾性グロメット 58 が、後凹部 48 の後部側に弾性グロメット 59、60 が、それぞれ軸線を車幅方向に沿わせた状態で取り付けられている。

#### 【0024】

また、取付フランジ部 55 の側壁部 39 側の基端縁部 54 には、複数の係合溝 62～66 が下方向に貫通するように形成されている。具体的には、前凹部 47 における底側かつ前側近傍の基端縁部 54 に係合溝 62 が、前凹部 47 における底側かつ後側近傍の基端縁部 54 に係合溝 63 が、前凹部 47 の後側の立ち上がり部分近傍の基端縁部 54 に係合溝 64 が、後凹部 48 における底側近傍の基端縁部 54 に係合溝 65 が、後凹部 48 の後側の立ち上がり部分近傍の基端縁部 54 に係合溝 66 がそれぞれ形成されている。ここで、これら係合溝 62～66 は取付フランジ部 55 に沿って長い長穴形状をなしている。なお、ステップボード本体 33 は樹脂で一体成形されている。

#### 【0025】

エンジンサブカバー 34 は、図 2 に示すように、ステップ部 46 を有する上記したステップボード本体 33 に対し別体で設けられ、前後方向に沿いかつ上下方

向に沿う状態でステップボード本体 33 に取り付けられてパワーユニット 15 とステップボード本体 33 のステップ部 46 との間に配置されるものである。ステップボード本体 33 に取り付けられた状態をもってエンジンサブカバー 34 を説明する。

#### 【0026】

図 4 に示すように、エンジンサブカバー 34 は、前後方向に沿いかつ上下方向に沿う状態で前後方向に延在する前後延在部 70 と、この前後延在部 70 の前部から前後方向に沿いかつ上下方向に沿う状態で下方に延出する下方延出部 71 と、前後延在部 70 の後部から前後方向に沿いかつ上下方向に沿う状態で上側ほど後側に位置するように傾斜して上方に延出する傾斜延出部 72 とを有する形状をなしている。

#### 【0027】

エンジンサブカバー 34 は、前後延在部 70 の前部に、パワーユニット 15 の方向に突出して、上記したステップボード本体 33 の弾性グロメット 57 に嵌合させられる先太の嵌合軸部 74 が形成されており、前後延在部 70 の後部に、パワーユニット 15 の方向に突出して、上記したステップボード本体 33 の弾性グロメット 58 に嵌合させられる先太の嵌合軸部 75 が形成されている。また、傾斜延出部 72 の上部には、前側に、パワーユニット 15 の方向に突出しセンタカバー 24 の後部下端側の弾性グロメット 76 に嵌合させられる先太の嵌合軸部 78 が形成されており、後側に、パワーユニット 15 の方向に突出し、ステップボード本体 33 の弾性グロメット 59 に嵌合させられる先太の嵌合軸部 79 が形成されている。なお、取付フランジ部 55 の後端部上端側の弾性グロメット 60 にはセンタカバー 24 の下端後端部の嵌合軸部 80 が嵌合させられる。

#### 【0028】

また、エンジンサブカバー 34 の下方延出部 71 の下端縁部の前部には、下方に延出してステップボード本体 33 の係合溝 62 に係合させられる係合片部 81 が形成されており、下方延出部 71 の下端縁部の後部には、下方に延出して係合溝 63 に係合させられる一対の係合片部 82, 83 が形成されている。加えて、下方延出部 71 の後側の端縁部には、下方に延出して係合溝 64 に係合させられ

る鉤型の係合片部 84 が形成されており、前後延在部 70 の下端縁部の後部には、下方に延出して係合溝 65 に係合させられる係合片部 85 が形成されている。さらに、傾斜延出部 72 の後側の端縁部には、下方に延出して係合溝 66 に係合させられる鉤型の係合片部 86 が形成されている。

#### 【0029】

そして、本実施形態においては、エンジンサブカバー 34 の前後延在部 70 および下方延出部 71 に、傾斜延出部 72 の前側の端縁部の延長線にほぼ沿って延びる長穴形状の挿通開口部 88 が車幅方向に貫通して形成されている。この挿通開口部 88 は、パワーユニット 15 から前方斜め左方向に延出するチェンジペダル 28 を挿通させるものである。ここで、エンジンサブカバー 34 の挿通開口部 88 を形成するループ状の周縁部 89 は、前部側の前側周縁部 90 がパワーユニット 15 側（車幅方向右側）に位置し後部側の後側周縁部 91 がパワーユニット 15 に対し車幅方向反対側（車幅方向左側）に位置するように段付き形状をなしている。さらに詳しく述べれば、図 3 に示すように、前側周縁部 90 は、全体として後側ほどパワーユニット 15 側に位置するように若干傾斜しており、後側周縁部 91 はこの前側周縁部 90 の上下両端側から車幅方向においてパワーユニット 15 に対し反対側に若干立ち上がる脚部 92, 93 とこれら脚部 92, 93 同士を結ぶ橋部 94 とを有する凹の字形状をなしている。なお、エンジンサブカバー 34 は、嵌合軸部 74, 75, 78, 79 および係合片部 81～86 を含んで、樹脂で一体成形されている。

#### 【0030】

加えて、本実施形態においては、エンジンサブカバー 34 の下方延出部 71 に、挿通開口部 88 の下端部からステップボード本体 33 への取付側となるエンジンサブカバー 34 の下端縁部に鉛直方向に抜けるスリット 96 が形成されており、この下端縁部には、スリット 96 を跨ぐように分離されて上記した一对の係合片部 82, 83 が形成されている。

#### 【0031】

次に、チェンジペダル 28 を有するパワーユニット 15 が搭載された車体フレーム 35 に先行して取り付けられたステップボード本体 33 に対しての上記エン

ジンサブカバー 34 の取り付けについて説明する。なお、センタカバー 24 も先行して車体フレーム 35 に取り付けられることになり、その嵌合軸部 80 をステップボード本体 33 の上端部の弾性グロメット 60 に嵌合させている。

#### 【0032】

エンジンサブカバー 34 を全体的に前後方向に沿いかつ上下方向に沿う状態とし、しかも前後延在部 70 を前後方向に長い姿勢として、ステップボード本体 33 の上側から下方に移動させる。このとき、先行して車体フレーム 35 に搭載されたパワーユニット 15 から前方に斜め外側に傾斜しながら延出しているチェンジペダル 28 の延出板部 30 については、下端縁部に抜けているスリット 96 を通過させて挿通開口部 88 内に挿通させる状態とする。

#### 【0033】

そして、エンジンサブカバー 34 を上側が下側よりもパワーユニット 15 に対し反対側に位置するように若干傾斜した状態として、係合片部 81 をステップボード本体 33 の係合溝 62 に、一对の係合片部 82, 83 をステップボード本体 33 の共通の係合溝 63 に、鉤型の係合片部 84 をステップボード本体 33 の係合溝 64 に、係合片部 85 をステップボード本体 33 の係合溝 65 に、鉤型の係合片部 86 をステップボード本体 33 の係合溝 66 に、それぞれ係合させる（図 4 において係合後の係合片部 81～86 を二点鎖線で示す）。

#### 【0034】

次に、エンジンサブカバー 34 の傾斜状態を戻しつつ、嵌合軸部 74 をステップボード本体 33 の弾性グロメット 57 に、嵌合軸部 75 をステップボード本体 33 の弾性グロメット 58 に、嵌合軸部 78 をセンタカバー 24 の弾性グロメット 76 に、嵌合軸部 79 をステップボード本体 33 の弾性グロメット 59 に、それぞれ嵌合させる。このようにして、エンジンサブカバー 34 がステップボード本体 33 およびセンタカバー 24 に取り付けられる。

#### 【0035】

以上に述べた本実施形態のステップボード 26 によれば、パワーユニット 15 とステップ部 46 との間に、前後方向に沿いかつ上下方向に沿う隔壁部としてのエンジンサブカバー 34 が設けられているため、パワーユニット 15 との隙間を

介して載り上げようとする雪や泥等はこのエンジンサブカバー 34 に当たることになって載り上げが阻止されるとともに、パワーユニット 15 から乗員の足に向けた放熱もエンジンサブカバー 34 で遮断されることになる。しかも、エンジンサブカバー 34 には、チェンジペダル 28 を挿通させる挿通開口部 88 が設けられているため、チェンジペダル 28 があってもエンジンサブカバー 34 を十分に広くすることができ、雪や泥等の載り上げを確実に阻止することができるとともに、パワーユニット 15 から乗員の足に向けた放熱も確実に遮断することができる。

#### 【0036】

また、チェンジペダル 28 を有するパワーユニット 15 が搭載された車体側への取付時に、ステップ部 46 を有するステップボード本体 33 を先に取り付けておき、その後、これとは別体のエンジンサブカバー 34 を、その端縁部側に抜けるスリット 96 を介してチェンジペダル 28 を端縁部側から通過させ挿通開口部 88 に挿通させる状態として、ステップボード本体 33 に取り付けることができる。したがって、エンジンサブカバー 34 の挿通開口部 88 にチェンジペダル 28 を挿通させるようにしても、取り付けを容易に行うことができる。しかも、エンジンサブカバー 34 においてスリット 96 は挿通開口部 88 からステップボード本体 33 への取付側の端縁部に抜けるため、ステップボード本体 33 に取り付ければ、このスリット 96 による分割部分をステップボード本体 33 で固定することができる。つまり、上記のように、スリット 96 を挟んで両側に一对の係合片部 82, 83 を設け、これら係合片部 82, 83 をステップボード本体 33 の共通の係合溝 63 に係合させることで、スリット 96 による分割部分をステップボード本体 33 で固定し一体化することができる。したがって、スリット 96 を設けたとしてもエンジンサブカバー 34 の剛性を確保できる。

#### 【0037】

さらに、エンジンサブカバー 34 の挿通開口部 88 を形成する周縁部 89 の前側周縁部 90 がパワーユニット 15 側に位置し後側周縁部 91 がパワーユニット 15 に対し車幅方向反対側に位置しており、挿通開口部 88 がエンジンサブカバー 34 から前方外側に開口するため、パワーユニット 15 とエンジンサブカバー

34との隙間を介してエンジンサブカバー34に当たる雪や泥等が挿通開口部88に入り込みにくくなる。したがって、走行中に雪や泥等が挿通開口部88を介して載り上げることを防止できる。

#### 【0038】

加えて、エンジンサブカバー34に嵌合軸部74, 75, 78, 79および係合片部81～86を一体成形し、ステップボード本体33に係合溝62～66を一体成形するとともに弾性グロメット57～60を取り付け、さらにセンタカバー24に弾性グロメット76を取り付けて、センタカバー24の嵌合軸部80をステップボード本体33の弾性グロメット60に嵌合させた後、係合片部81～86の係合溝62～66への係合と嵌合軸部74, 75, 78, 79の弾性グロメット57, 58, 59, 76への嵌合とでエンジンサブカバー34をステップボード本体33およびセンタカバー24に取り付けるため、メンテナンス性が向上するとともに、コスト増を抑えることができる。

#### 【0039】

##### 【発明の効果】

以上詳述したように、請求項1に係る発明によれば、パワーユニットとステップ部との間に、前後方向に沿いかつ上下方向に沿う隔壁部が設けられているため、パワーユニットとの隙間を介して載り上げようとする雪や泥等はこの隔壁部に当たることになって載り上げが阻止されるとともに、パワーユニットから乗員の足に向けた放熱も隔壁部で遮断されることになる。しかも、隔壁部には、操作ペダルを挿通させる挿通開口部が設けられているため、操作ペダルがあっても隔壁部を十分に広くすることができ、雪や泥等の載り上げを確実に阻止することができる。また、パワーユニットから乗員の足に向けた放熱も確実に遮断することができる。

#### 【0040】

請求項2に係る発明によれば、操作ペダルを有するパワーユニットが搭載された車体への取付時に、ステップ部を有するステップボード本体を先に取り付けておき、その後、これとは別体の隔壁部を、その端縁部側に抜けるスリットを介して操作ペダルを端縁部側から通過させ挿通開口部に挿通させる状態として、ステ

ップボード本体に取り付けることができる。したがって、隔壁部の挿通開口部に操作ペダルを挿通させるようにしても、取り付けを容易に行うことができる。しかも、隔壁部においてスリットは挿通開口部からステップボード本体取付側の端縁部に抜けるため、ステップボードに取り付ければ、このスリットによる分割部分をステップボードで固定することができる。したがって、スリットを設けたとしても隔壁部の剛性を確保できる。

#### 【0041】

請求項3に係る発明によれば、隔壁部の挿通開口部を形成する周縁部の前部側がパワーユニット側に位置し後部側がパワーユニットに対し車幅方向反対側に位置しているため、パワーユニットと隔壁部との隙間を介して隔壁部に当たる雪や泥等が挿通開口部に入り込みにくくなる。したがって、走行中に雪や泥等が挿通開口部を介して載り上げることを防止できる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】 鞍乗り型車両を示す斜視図であってパワーユニット等を透過状態で示すものである。

【図2】 本発明の一実施形態の鞍乗り型車両のステップボードを示す側面図である。

【図3】 本発明の一実施形態の鞍乗り型車両のステップボードにおける挿通開口部近傍の平断面図である。

【図4】 本発明の一実施形態の鞍乗り型車両のステップボードを示す分解側面図である。

#### 【符号の説明】

- 11 鞍乗り型車両
- 15 パワーユニット
- 26 ステップボード
- 28 チェンジペダル（操作ペダル）
- 33 ステップボード本体
- 34 エンジンサブカバー（隔壁部）
- 46 ステップ部



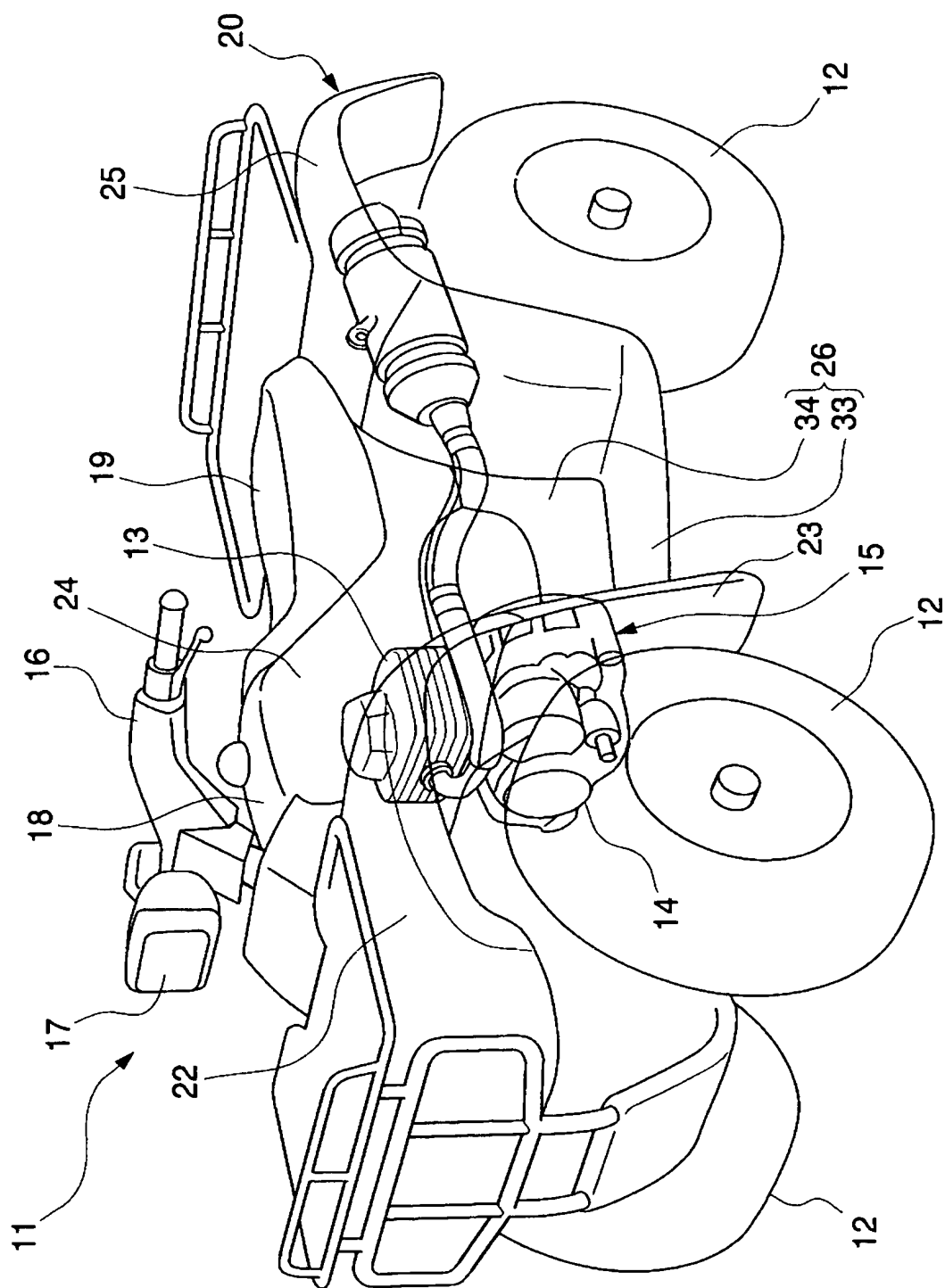
8 8 挿通開口部

8 9 周縁部

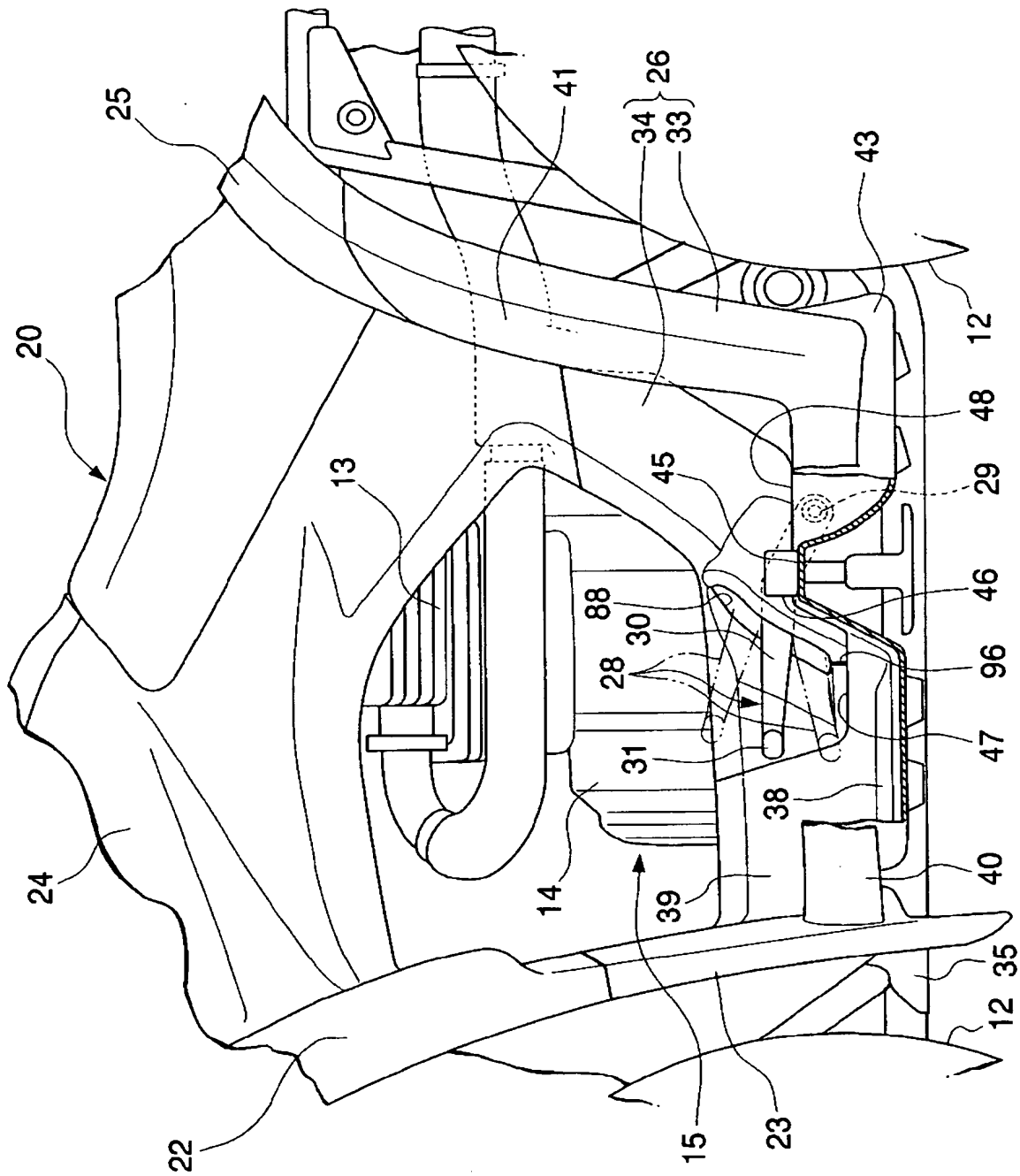
9 6 スリット

【書類名】 図面

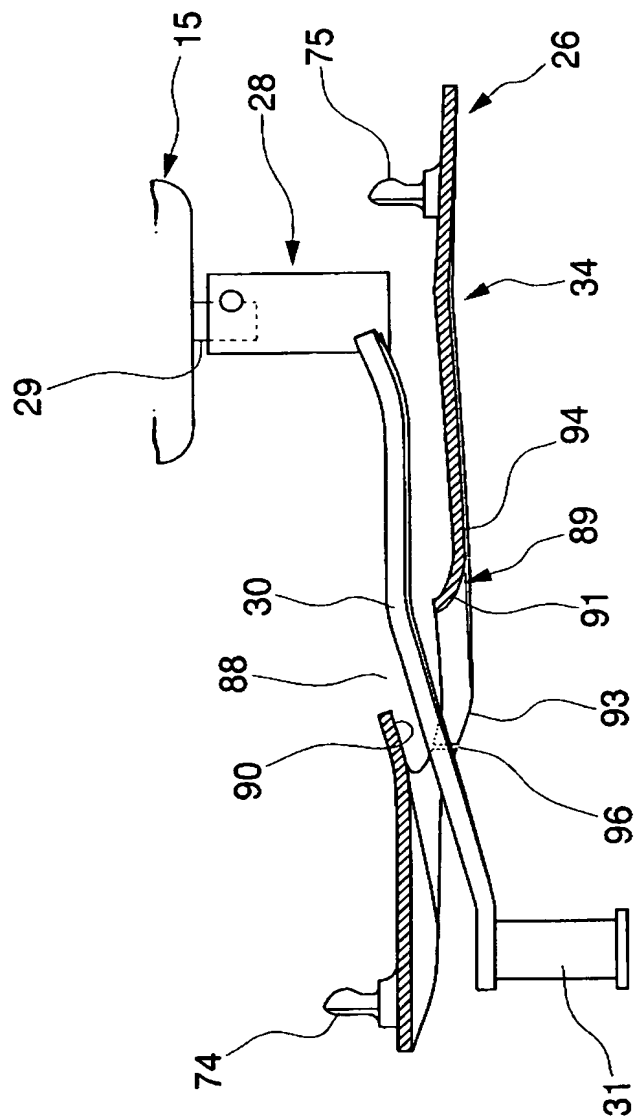
【図 1】



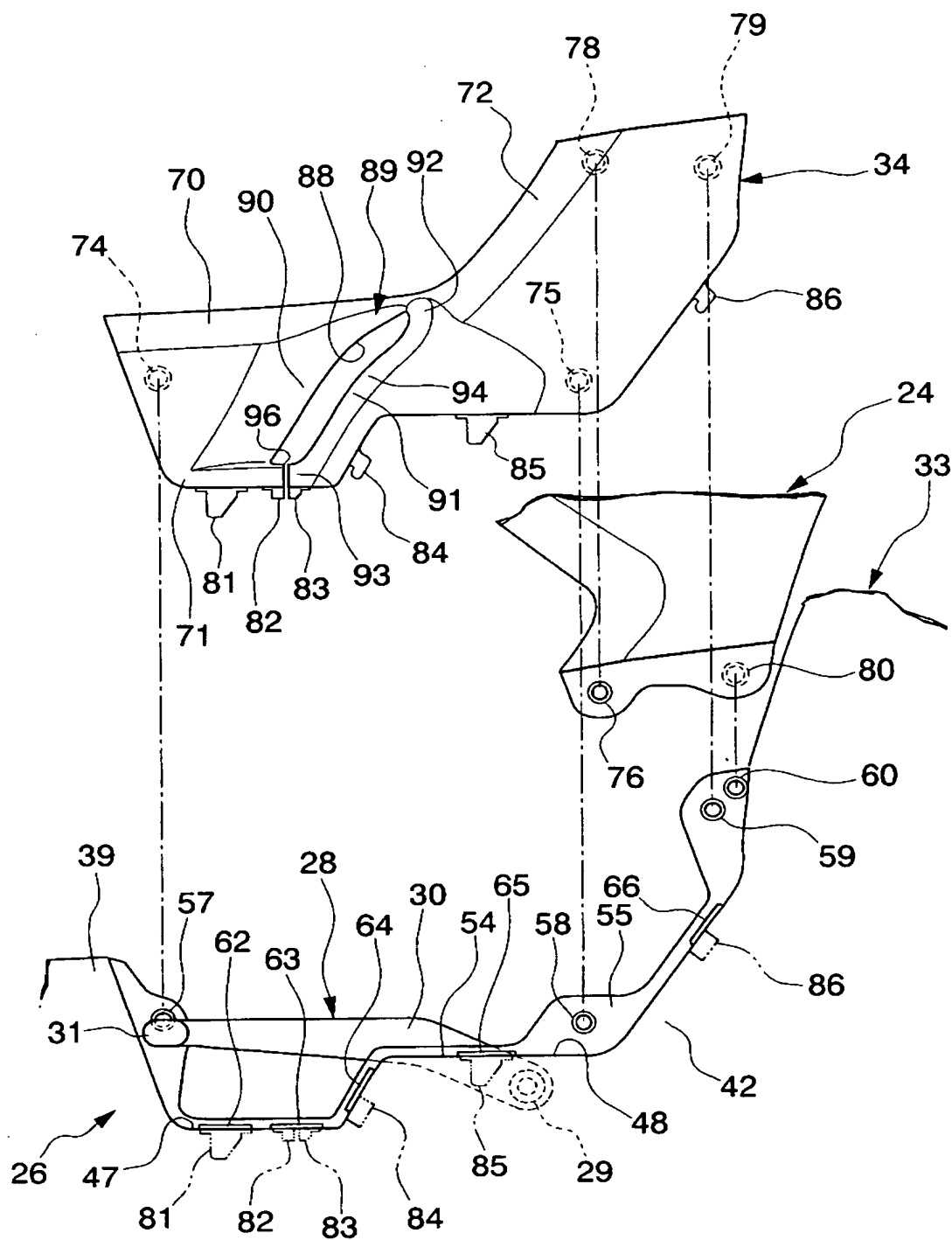
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 走行中に雪や泥等が載り上げること防止することができるとともにパワーユニットから乗員の足に向けた放熱を遮断することができる鞍乗り型車両のステップボードの提供。

【解決手段】 車幅方向の側部に操作ペダル 2 8 を備えたパワーユニット 1 5 の車幅方向の側方に配置されるとともに乗員の足が載せられるステップ部 4 6 を備えたステップボード 2 6 において、操作ペダル 2 8 を挿通させる挿通開口部 8 8 を有し前後方向に沿いかつ上下方向に沿う隔壁部 3 4 をパワーユニット 1 5 とステップ部 4 6 との間に設けることにより、挿通開口部 8 8 に操作ペダル 2 8 を挿通させることで広くできる隔壁部 3 4 で、パワーユニット 1 5 との隙間を介して載り上げようとする雪や泥等と、パワーユニット 1 5 からの放熱とを遮断する。

【選択図】 図 2

## 認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 1 0 2 1 2 8
受付番号	5 0 3 0 0 5 6 8 6 2 8
書類名	特許願
担当官	第三担当上席 0 0 9 2
作成日	平成 1 5 年 4 月 7 日

## &lt; 認定情報・付加情報 &gt;

## 【特許出願人】

【識別番号】	000005326
【住所又は居所】	東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号
【氏名又は名称】	本田技研工業株式会社

## 【代理人】

申請人

【識別番号】	100064908
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	志賀 正武

## 【選任した代理人】

【識別番号】	100108578
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	高橋 詔男

## 【選任した代理人】

【識別番号】	100101465
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	青山 正和

## 【選任した代理人】

【識別番号】	100094400
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	鈴木 三義

## 【選任した代理人】

【識別番号】	100107836
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所

次頁有

認定・付加情報（続き）

【氏名又は名称】 西 和哉  
【選任した代理人】  
【識別番号】 100108453  
【住所又は居所】 東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ  
ル 志賀国際特許事務所  
【氏名又は名称】 村山 靖彦

次頁無



特願 2 0 0 3 - 1 0 2 1 2 8

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 0 5 3 2 6 ]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 9 月 6 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号
氏 名	本田技研工業株式会社